

<2016.12.25 記>

▼▼ 停止後5年で見えてきた女川原発の影響！ ▼▼

マスコミも注目しない中、宮城県の「測定技術会」「監視協議会」などにほとんど毎回参加し続けている市民側の傍聴者の方々には本当に頭が下がります。

H28.8.30の2・3号機放水口モニターの欠測、台風による仮設排水ホース絡まりのお粗末な話は、兵藤原稿をご覧ください。こととして、本稿では第139回技術会の資料で（遅ればせながら）気付いたことを記します。

資料1「環境放射能調査結果（案）平成28年度第2四半期」の各種環境試料中の放射能濃度のグラフには「平成2年度から福島第一原発事故前までの最大値」が示されていますが、これは単純に考えれば「①核実験由来」+「②女川原発由来」の放射能の値です（平成2年度から＝チェルノブイリ原発事故の影響がないものと仮定）。現在は「①核実験由来」+「②女川原発由来」に「③福島原発事故由来」の放射能が加わるため、『（①+②+③：事故後の測定値）>（①+②：事故前の最大値）』という結果が

得られるだろうことは、誰にでも想像が付きまゝす。そして、事故後は女川原発が稼働していないことから「②≒0」と仮定すれば（実際には違う？）、『（①+③：事故後）>（①+②：事故前）』となり、事故前①と事故後①は大きく変わらないと考えられるので、『③>②』となり、「あー、やっぱり、福島原発事故の汚染は、（大きな事故のなかった）女川原発の影響より大きいんだ！」と“納得”です【図2-15～2-24】。

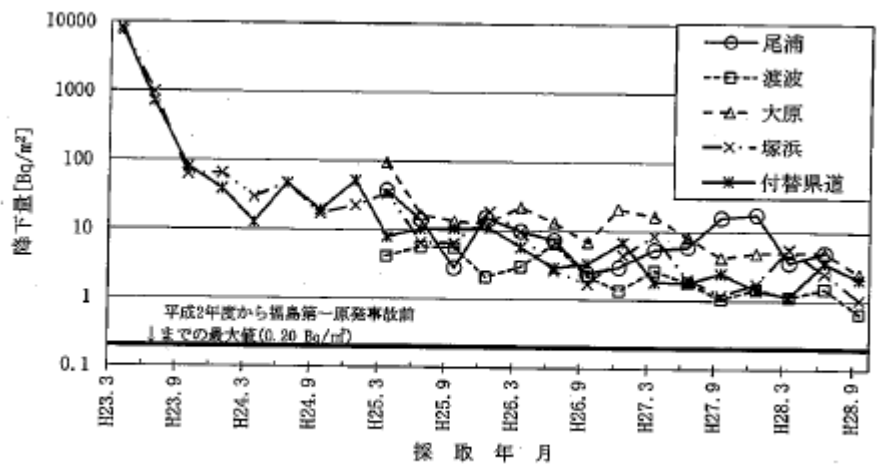


図-2-15 四半期間降水物（雨水・ちり）のCs-137降下量の推移

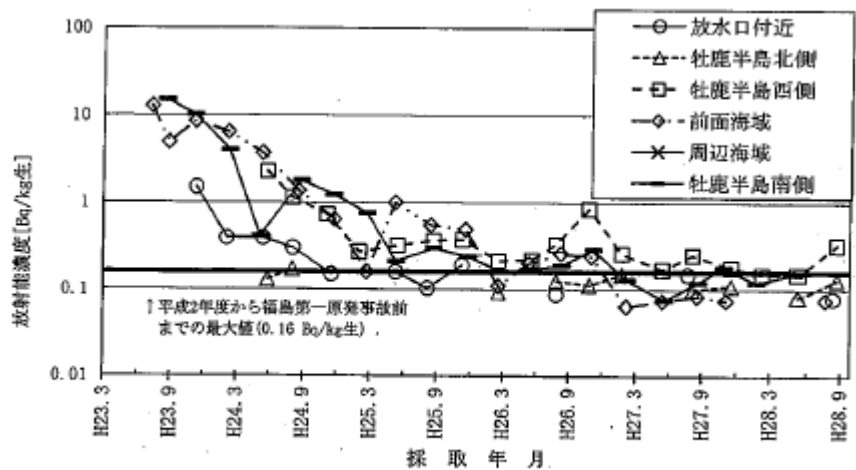


図-2-24 アラメのCs-137濃度の推移

ところが、確かに「セシウム137 (Cs-137)」の推移はその通りでしたが、アレック？、おかしなグラフが目にとまりました。「ストロンチウム90 (Sr-90)」と「トリチウム3 (H-3)」で【図2-25～2-27】、いずれも「事故後の測定値」が「事故前最大値」より下で推移しています。

ストロンチウム90は、福島原発事故でかなりの量が海洋に放出され、多くの海産物を汚染し続けていますが、幸い女川周辺海域にまでは拡散していません【アラメ：図2-26】。また、セシウム137・134は揮発しやすく、放射能雲（プルーム）として3月12日深夜に女川原発周辺に流れてきて汚染をもたらしたのに対して、揮発しにくいストロンチウム90はプルーム中には多くないと考えられることから、大気経由でも「福島原発事故による汚染はほとんどなかった」ことを示しているものと思われ【ヨモギ：図2-25】、まあ“一安心”です。

…でも、最初の『①´+②´+③´：事故後』と『①+②：事故前』で考え、「ストロンチウム90」と「トリチウム3」については『③´≒0』と仮定すれば（当然①´=①）、『(②´：事故後) < (②：事故前)』ということで、‘女川原発の長年の稼働’が汚染をもたらしていた！ということが一目瞭然です。また、セシウム137についても、最近のデータが過去最大値を下回っている場合には、同じ結論が導かれます。

この点は技術会・協

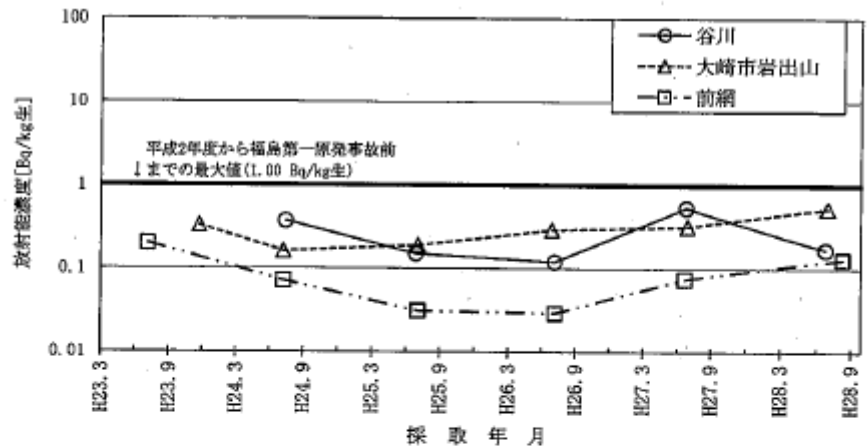


図-2-25 ヨモギのSr-90濃度の推移

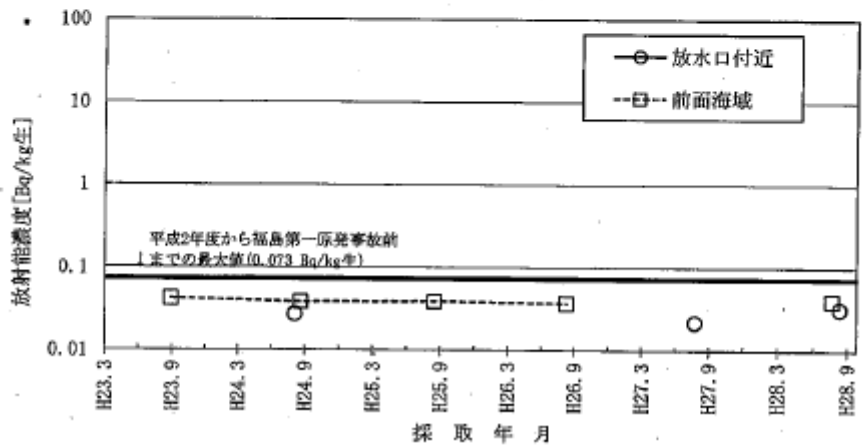


図-2-26 アラメのSr-90濃度の推移

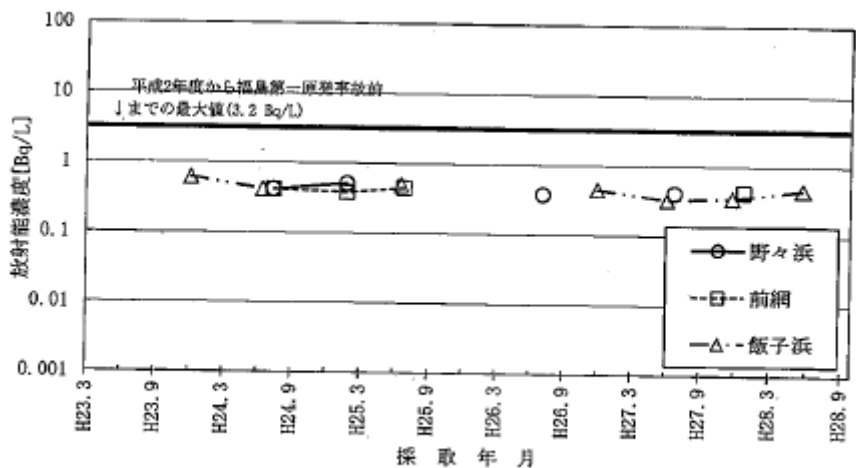


図-2-27 陸水のH-3濃度の推移

議会でも当然議論・認識されていることだと思いますが、遅ればせながら筆者も気づきましたので、ここに報告した次第です。

やはり、女川原発を再稼働させないことが最善の放射能汚染防止策になることを、再確認したいと思います。

<了>